標準保健師講座

Standard textbook
全5巻

保健師養成テキストの決定版

- 保健師として現場経験豊富な看護大学教員や、地域保健に詳しい公衆衛生医師らで構成する執筆陣。
- 国家試験対策はもとより、保健師として公衆衛生看護を実践するうえでの必須事項を網羅。

1 公衆衛生看護学概論 第7版 2026年改訂
● B5 頁 304 定価：3,630円（本体 3,300円＋税 10%）[ISBN978-4-260-06199-5]

2 公衆衛生看護技術 第6版 2027年改訂
● B5 頁 320 定価：3,630円（本体 3,300円＋税 10%）[ISBN978-4-260-06586-3]

3 対象別公衆衛生看護活動 第5版
● B5 頁 392 定価：3,850円（本体 3,500円＋税 10%）[ISBN978-4-260-05303-7]

4 疫学・保健統計学 第4版
● B5 頁 240 定価：3,300円（本体 3,000円＋税 10%）[ISBN978-4-260-05682-3]

5 保健医療福祉行政論 第6版
● B5 頁 272 定価：3,520円（本体 3,200円＋税 10%）[ISBN978-4-260-05673-1]

本講座の編集方針

カリキュラムを網羅した充実の内容

本講座は、カリキュラムに基づき、次の５つの基本的な目標を達成するために必要となる情報を収載しています。

❶個人・家族・集団・組織を含むコミュニティ（共同体）を地域とし、個人の状況も踏まえつつ地域及び地域を構成する人々の心身の健康並びに疾病・障害の予防、発生、回復及び改善の過程を多角的・系統的かつ予測的に捉えてアセスメントし、顕在・潜在している地域の健康課題を明確にし、解決・改善策を計画・立案・実施・評価する能力を養う。

❷地域の人々が、自らの健康状態を認識し、健康の保持増進を図ることができるよう予防的アプローチも含めて支援するとともに、自主的に社会資源を活用できるよう支援し評価する能力を養う。

❸広域的視点も踏まえて、平常時から健康危機管理の体制を整備し、健康危機の発生時から発生後の健康課題を早期に発見し迅速かつ組織的に対応する能力を養う。

❹地域の健康水準を高めるために、保健・医療・介護・福祉サービスを調整し活用する能力及び地域の健康課題の解決に必要な事業化や施策化、社会資源の活用・開発・管理及びケアシステムの構築を行う能力を養う。

❺保健・医療・介護・福祉に関する最新の知識・技術を主体的かつ継続的に学ぶことにより実践の質を向上させ、社会情勢の動向を的確に捉え、社会的正義・公正に基づき、倫理的問題に対応する能力を養う。

本講座の特徴

基礎教育のためのテキストとして

本講座は、保健師国家試験出題基準の内容を網羅し、かつ限られた時間のなかで効果的に学習ができるように内容を厳選しました。

全５巻の巻構成は、保健師国家試験出題基準をふまえつつ、学習のしやすさに配慮したものとなっています。とくに第１巻「公衆衛生看護学概論」では、１冊で保健師活動の概要が理解できる構成とするため、保健師国家試験出題基準の「公衆衛生看護学概論」だけでなく、「公衆衛生方法論I」「公衆衛生方法論II」「健康危機管理」の一部、および「公衆衛生看護管理論」を含めた内容としました。看護師養成課程においても、臨地実習の前に公衆衛生看護活動の概要を理解するのに適した１冊となっています。

また、人々をとりまく社会の様相が大きく変化するなか、保健師に求められる業務や活動の範囲は、従来にも増して拡大しています。本講座は、経験豊富な保健師や、保健師経験をもつ看護大学教員、地域保健に詳しい公衆衛生医師といった執筆陣により、基礎的内容に加え、実践的内容にも踏み込んだ記述としました。

さらに、読者が理解しやすいように全巻2色刷りとし、図表を多く取り入れ、見やすさ、使いやすさも工夫しています。

改訂のない年も年度ごとに増刷を行い、さまざまな法制度や統計データ、ガイドラインの更新に対応しています。

各巻の特徴

第１巻　公衆衛生看護学概論は、保健師国家試験出題基準の「公衆衛生看護学概論」、「公衆衛生看護方法論I」「公衆衛生看護方法論II」「健康危機管理」の一部、「公衆衛生看護管理論」に対応しています。

公衆衛生看護の理念・概念、活動の対象と場、背景・環境などを解説し、公衆衛生看護活動の展開の理論・方法、および地域アセスメント（地域診断）に基づく活動の計画・実践・評価について、わかりやすく解説しています。また、公衆衛生看護管理および健康危機管理の基本についても取り上げています。演習事例により、地域アセスメントの診断プロセスを具体的に学習することができます。

第２巻　公衆衛生看護技術は、保健師国家試験出題基準の「公衆衛生看護学概論」の一部、「公衆衛生看護方法論I」「公衆衛生看護方法論II」に対応しています。対人支援をはじめ、ケースマネジメント、健康相談、家庭訪問、健康教育、地域組織活動、地域ケアシステムづくりなどの、公衆衛生看護を実践するうえで必要とされる技術と、活動実践の基盤となる理論やモデルについて解説しています。

第３巻　対象別公衆衛生看護活動は、保健師国家試験出題基準の「対象別公衆衛生看護活動論」「学校保健・産業保健」「健康危機管理」に対応しています。母子保健（親子保健）活動、女性の健康支援、成人保健活動、生活習慣病対策、高齢者保健医療福祉活動、精神保健医療福祉活動、障害者（児）保健医療福祉活動、難病保健活動、感染症保健活動、歯科口腔保健活動、学校保健、産業保健、健康危機管理を取り上げています。事例「実践場面から学ぶ」を各章に適宜配置し、保健師活動の具体的な理解を促します。

第４巻　疫学・保健統計学は、保健師国家試験出題基準の「疫学」「保健統計」に対応しています。公衆衛生看護を実践するうえで必要な疫学・保健統計学の基礎知識に加え、その適用場面を具体的に解説しています。各章末に豊富な演習問題を掲載し、学生の理解が確かなものとなるよう工夫をこらしました。

第５巻　保健医療福祉行政論は、保健師国家試験出題基準の「保健医療福祉行政論」に対応しています。公衆衛生看護を実践するうえで必要となる保健医療福祉の制度・しくみやその歴史、行政計画の策定・評価などについて解説します。また、誌上演習で保健事業の企画・立案のプロセスを学習することができます。